



世界に希望を生み出そう

Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

◆点鐘：長澤 裕二 会長 ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
◆司会：新藤 幸紀 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



第3013回例会 令和6年5月13日(月)

会長あいさつ

長澤 裕二 会長



今日は後が色々詰まっているので何も話さないでくれというふうに言われましたけれど、明日、今年度一番大事な事業のアオモリトドマツを植えるという話があるんですね。今年6月1日に現地の準備をします。皆さん、100人の会員で1本ずつ植えましょうよ。それにぜひ参加していただきたいということで、ロープウェイで行きます。ぜひ、どんな方でも参加していただければと思います。そしてなんとかこれを西ロータリーの事業として今後続けていけるように、その礎となる1年目ですから、なんとでも100本みんなで植えたいと思いますので、6月15日に行きますので、今から空けておいてください。ぜひ参加してください。よろしくお願いします。

幹事報告

三沢 大介 幹事

- 本日、金沢西ロータリークラブさんからお土産を頂戴しております。皆さんのテーブルのところに2種類のお菓子をご準備させていただきましたので、食事のあとに召し上がっていただければと思います。
- 新会員のご紹介をさせていただきます。1人目、東北電力ネットワーク株式会社山形電力センターの渡辺亮人さん。2人目、明治安田生命保険山形支社長の松本定重さん。3人目、清水建設株式会社山形営業所、営業所長の内山秀樹さん。よろしくお願いします。
- 例会終了後理事会を開催いたします。該当される方はお残りくださいますようお願いいたします。
- 5月のロータリーレートは157円です。

委員会報告

親睦・家族委員会

会員8名、奥様が7名、5月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

新入会員のあいさつ



渡辺 亮人 さん

[東北電力ネットワーク山形電力センター]

山形での勤務は初めてになります。出身は新潟県の柏崎でございます、これまで30年弱、ほとんど宮城県で勤務をしてみましたが、初めての地ということで、山形、とにかく人を知りたい、地域を知りたい、そのように考えて今赴任したところでございます。

山形の皆さんとはとても仲良くしていただけるのかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



松本 定重 さん

[明治安田生命]

この4月に大分から転勤してまいりました。出身は横浜市です。ロータリー歴は4年になります。この歴史と伝統のある山形西ロータリークラブに入会できて大変光栄でございます。少しでも早く皆さんのお力になるようにがんばっていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。



内山 秀樹 さん

[清水建設山形営業所]

歴史と伝統ある山形西ロータリーに入会させていただきました本当にありがとうございます。皆さまからご指導いただきながら地域貢献活動に一生懸命取り組んで、山形西ロータリーをしっかりと盛り上げる一助となるようがんばっていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



岩多 剛 さん

[金沢西ロータリークラブ 会長]

皆さんこんにちは。私たちは金沢西ロータリークラブからまいりました。向かって左から本光友好・姉妹クラブ委員長、高橋60周年実行委員長、本多幹事、松本会長エレクト、そして私、今年度の会長を務めさせていただいております岩多と申します。よろしくお願いたします。

1月1日の能登半島地震におきましては、山形西ロータリーさんにはいち早くご連絡いただきまして、義援金をいただきまして本当に感謝しております。幸い金沢西ロータリークラブのメンバーにおきましては、親戚とかは少し被害があったのですが、それほど被害は多くなく、今復興を待っている状況になっております。皆さまからいただきました義援金につきましては石川県に寄付させていただきまして、石川県で有効活用していただけるとしております。

今回こちらに来たのは、次年度になるのですが、9月27日に金沢西ロータリークラブが60周年になっておりまして、60周年記念事業を行いたいと思っておりますので、後ほど実行委員長の高橋から少しご説明させていただきます。

私自身、山形に来たのは今回が初めてでして、クラブに入ってから6年になって、実はその間にこちらの周年事業もあったのですが、そちらには来られなかったもので、3年後の周年事業も含めまして、今後より一層両クラブの友好をこれを機に深めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。今日はよろしくお願いたします。



高橋 功 さん

[金沢西ロータリー 60周年実行委員長]

60周年の実行委員長をやっております高橋と申します。

1月1日に大震災がありまして、60周年を実行するために1年以上前からいろいろと動いていたのですが、開催すべきかどうかという声もありました。でも能登も復興するためにいろいろとやっていますので、それを支援するというのも1つのテーマに入れさせていただいて、それからいろんな方々にたくさんのこういうご支援をいただきましたので、その方がたにも感謝をするという意味でおもてなしをさせていただこうと思ひまして、9月27日ですけれども、金沢で記念例会をさせていただきます。

うちのクラブができましたのは1964年7月4日で、ちょうど最初の東京オリンピックがあった年です。それからもう60年、金沢で3番目のロータリークラブとして誕生しました。ささやかではありますが支援も含めて記念例会をやりたいと思ひますので、皆さんぜひご都合をつけていただいて、9月27日、ぜひたくさんの方に来ていただいで、一緒にお祝いしていただけたら非常に幸いだと思ひますので、よろしくお願いたします。今日はどうもありがとうございました。

〈5月13日〉

長澤裕二会長／金沢西ロータリークラブ5名の来訪を歓迎します

今年60周年を迎える金沢西ロータリークラブから岩多会長、本多幹事をはじめ5名の方が山形西ロータリークラブを訪問されました。今年9月には大挙して金沢に行きましよう。

金沢西ロータリークラブ一同／お礼

山形西ロータリークラブの皆様へ金沢西ロータリークラブから心からの謝意をお伝えします。貴重なお時間を割いて当クラブ60周年記念のPRと敬意を示す訪問を受け入れていただき感謝申し上げます。今後もさらに絆を深め、末永く交流を続けていけることを心より願っております。このご縁を感謝してニコニコいたします。皆様の来訪をお待ちしております。

三沢大介さん／球風会大成功。金沢西ロータリークラブの皆さまをお迎えして

金沢西ロータリークラブより5名の皆さまをお迎えし、心より歓迎いたします。来年度の60周年を楽しみにしていただいております。

遠藤靖彦さん／ようこそ

金沢西ロータリークラブの皆さま、ようこそ山形へ。9月27日の60周年を楽しみにしています。追伸、昨日の球風会はブービーでした。悔し〜。

高橋順弘さん／球風会優勝に感謝

昨日の球風会でメンバーとハンデに恵まれ勝つことができました。久しぶりの勝利に嬉しく思います。話は変わりますが、我が母校、法政大学体育会空手部が東日本大会において49年ぶりに優勝することができました。併せて感謝申し上げます。追記、49年前の優勝は私が大学4年生の時でした。

市村清勝さん／楽しい球風会

昨日の球風会に参加させていただきました。両肩のリハビリあけの2度目のゴルフ。1年半のブランクあけとしては、107点とまあまあでしたが、ワーストグロス賞をいただきました！100点前後の人はお気をつけ下さい。西ロータリーはレベル高いです！

富田浩志さん／第19代酒井家忠順さんをお招きして、心より感謝申し上げます。

小野木健治さん／球風会春季大会についてニコニコ

多くのメンバーで交流でき、大変ありがとうございました。

球風会

5月12日山形ゴルフクラブにて、球風会が行われました。ご参加、ありがとうございました！

優勝：高橋順弘さん 準優勝：近藤和幸さん





致道博物館の今後について
～歴史と文化を未来へ～

酒井 忠順 さん

[公益法人致道博物館 代表理事館長]

酒井忠順と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。致道博物館の代表理事館長ということで、昨年6月に父から博物館のほうは受け継ぎました。ただ、酒井家となりますとまだ父が当主でございまして、こちらにございましており世継ぎということで、私は19代目でございますが、よろしくお願ひいたします。

現在、致道博物館の代表理事館長、そして一般社団法人を5年前に立ち上げて、荘内酒井歴史文化振興会という一般社団法人の代表理事を務めています。こちらの一般社団法人は酒井家の歴代当主が眠るお墓が、酒井家墓所というのがあるのですが、そのお墓が2,200坪くらいある広大な墓所なんです。それが個人管理で父が草むしりとかしたり、管理していた墓所だったのですが、これをいずれ一般公開したいということで、一般公開に向けて、地元中心に企業約150社から支援をいただいて一般社団法人を運営しております。

皆さまご存じのとおり、昨年『どうする家康』で、大森南朋さんが酒井忠次役を演じましたが、その徳川四天王の筆頭といわれる酒井忠次が酒井家の初代になります。そしてそこから始まる酒井忠次をやはり皆さまに知っていただきたいという気持ちがありまして、ちょっとお話をさせていただきたいと思ひます。ちなみにこの赤い甲冑がございまして、こちらは致道博物館所蔵でございまして、これはそうですね、実際には忠勝が着用していたといわれる甲冑でございまして。致道博物館にはこうした刀とか、刀剣、あと甲冑、いろんな重要文化財が残っております。それを守っていくことが博物館の大切な役割だと思ひます。

徳川四天王の筆頭ということで、徳川家康のすぐそばに控えており、ほかの四天王には本多、井伊、榊原とおりますが、その中でも年長でございまして徳川家のさまざまな戦に従軍しています。1570年の姉川の戦い。浅井長政、そして武田家との戦い、1572年に三方ヶ原の戦いにも従軍しています。そして1575年、長篠の戦い。そして秀吉との戦い。1584年、小牧・長久手の戦いでも活躍しております。

そもそも酒井家というのが転勤族でございまして、下総国3万石、上野高崎5万石、そして越後高田10万石、そして最後、信州松代10万石ということで、異動を繰り返してまいりました。そして3代忠勝の時に出羽国庄内藩13万8,000石に入部します。それが1622年のことでございまして、ちょうどおとし、2022年が酒井家が庄内に入って400年の記念の年でございまして。以降3代忠勝から19代の私に至るまで、酒井家は庄内に、鶴岡に残っています。

酒井家の歴代を振り返ると、7代忠寄が幕府の老中になっています。そして9代の忠徳というのが藩校致道館を創立して、財政の立て直しを図って、中興の祖と呼ばれる当主でございまして。そして10代忠器の時に三方領知替えという騒動に直面します。そして13代忠篤の時に戊辰戦争に突入します。戊辰戦争では領地に兵を入れることなく外で戦って、連戦連勝して、そんな中で会津とか周りの藩が続々と降伏していったので、やむなく庄内藩も降伏した

という経緯がございまして。そのあと藩主は命を助かり、そしてそのおかげで私も今いるのですけれども、そのあとは会津若松であつたりとかに異動する、転封するという命令が下るわけです。その時も領民が一丸となって寄付を集めていただいて、30万両という多額な資金を集め、それを明治新政府に納めることで酒井家は庄内に残ることができたんです。

致道博物館の歴史の話させていただきたいと思ひます。致道博物館は今年で創立74年目になります。昭和25年6月14日に創立された博物館であります。元々は庄内藩酒井家の16代酒井忠良が住まう土地、建物、そして文化財を寄付して設立した財団法人でございまして。その目的は地方文化の向上と発展にございまして。以来74年、カンボウ、そして文化振興のセンチンピンとして致道博物館は庄内、鶴岡で博物館事業をおこなってまいりました。それからこの博物館の旧西田川郡役所という建物でございまして。この建物が国の重要文化財でございまして。そしてここに青い建物でございまして、旧鶴岡警察署、元々警察署だった建物ですが、こちらが国の重要文化財でございまして。あとここに旧渋谷家住宅という多層民家がございまして。こちらが国の重要文化財でございまして。

致道博物館はこの区切られた敷地の中に国の重要文化財の建物が3棟建っている。コンセプトはすごくばらばらなんですけれども、非常にぎゅっとした博物館だと思ひます。この建物もそうですし、文化財とか美術品として、歴史、そして庄内に伝わる文化を守っていくことが当館の学芸員はじめ私の役割だと考えております。

「6分の2」とございまして。この6という数字でございまして、山形県の国宝の数でございまして。そのうちの2点、それが致道博物館が所蔵している刀、刀剣になります。国宝「太刀 銘 真光」。天正10年、信長と家康の連合軍が武田勝頼を破つたと。信長が忠次に送つたものといわれています。そのわずか3カ月後に信長は本能寺の変で亡くなることとなりますので、もしこの時にこの刀を忠次がいただいていたいなかったら、この刀はいったいどうしたんだらうなんていう、ちょっといろんな妄想が膨らむわけがあります。そしてもう一振りがある。国宝「太刀 銘 信房作」という刀でございまして。こちらは酒井忠次が戦功によって、家康から拝領して、そして酒井家に伝来したものでございまして。この国宝の二振りが博物館の宝であり、酒井家の宝であり、そして庄内、山形の宝である、国の宝である、ということでございまして。これをしっかりと守っていかなければいけません。

後ほどちょっとお話ししますが、実は当館、致道博物館はこれまでの博物館には無いような新しい取り組みもいろいろしてまいりまして、「刀剣乱舞ONLINE」というオンラインゲームとのコラボレーションによって、これは日本の博物館に先駆けて致道博物館がコラボレーションを実現し、今年で8回目を迎えることになりました。4月27日、今回の企画展の初日に、そのキャラクターで大いに盛り上げてもらって、日本全国から刀剣女子が70名くらい押し寄せました。これがその刀剣乱舞コラボのさまざまな取り組みの中身ですけれども、等身大のパネルを設置したりとか、あと御朱印を作つたりとか、いろんなコラボグッズを作つて、ミュージアムショップの運営、商品の開発というのもどんどんやっていかなければならないです。プラスアルファで攻めていかないと、こうした文化財を守ることはできません。その中で酒井家の菩提寺である大督寺さん、そして庄内神社、酒井家の歴代当主を祀っている神社でございまして、この2社からもご協力をいただき、このような御朱印、コラボグッズを作り、御朱印料、各飲食店とのコラボレーションであつたりとか、やっておりま

す。まさに博物館がただの博物館はなくて、その地域の、地域に根差した観光の拠点となり、かつ地域を盛り上げる発信位置になればと、これからも考えています。

そして、次の世代、未来への継承ということが大きな課題でございます。ちょうど昨年、父から館長を引き受けましたけれども、まだまだ学芸員というか、その歴史とか文化を未来に伝えていく人材は不足しています。やはり人材の獲得とかも含めて、それぞれの分野の専門家をなんとか雇用したり、みんなで力を合わせてこの文化を守る仕組みを作っていきたいと考えております。

藩校致道館、9代忠徳が設立した藩校でございますが、今、鶴岡市が所有していて、致道博物館が市から指定管理を受けて運営をしております。こちらは無料の施設なのですけれども、博物館が今年4月から入館料を上げまして、1,000円の入館料を取っていますので、1,000円の入館料を払うか、無料のこの致道館に行くかというところが、すごい綱引きみたいなのがあって、どちらも博物館が運営しているので、どちらもおすすめしたい気持ちはあるのですが、なかなか難しいところではあります。

そして、同じく指定管理を市から受けております大賣館、こちらは人物資料館でございます。そして先ほどお話しした一般社団法人のほうで公開を目指している酒井家墓所でございます。こちらもそうなのですが、たくさんの方々にご参拝いただいたり、酒井家の歴史とか酒井忠次を含めた歴代当主の歴史を伝えていきたいと考えております。

ちょっと離れていますけれど、国指定遺跡の松ヶ岡開墾場というところがございます。こちらは戊辰戦争に敗れた旧庄内藩士3,000名が刀を鋤に持ち替えて開墾をして、その場所に桑を植えて、そして蚕を育てたんです。その蚕を育てるための木造の「大蚕室」という、これを当時は明治10年までには10棟建てましたが、そのうちの5棟が今も残ってまして、それも今、鶴岡市が主体になって公開、活用をしております。その中の第1番蚕室、ここにございますが、松ヶ岡開墾記念館ということで松ヶ岡の開墾の歴史を伝える施設を、これも鶴岡市からの委託を受けて致道博物館が運営しております。

致道博物館、そして致道の由来でございます。その由来は論語でございます。子張第十九でございます。「子夏曰、百工居肆以成其事、君子学以致其道」その職人、大工さんとかがその職場で全力で力を尽くしてよい作品を作り上げていく。そして君子、人間というものは学び続けて自らの進んで行く道を選んでいくものだ。自然と天から自分の歩むべき道が降ってくるのだ。そういう感覚だと私は考えているのですが、そのような論語がこちらの致道の由来になっております。

酒井家400年記念の年、おとしでございましたが、鶴岡市が主体となって庄内地方だけで盛り上がったというようなことがありました。さまざまな行事やイベントが行われたのですけれども、まさにこのキャッチフレーズにあるとおり、400年からこの歴史を学んで、そしてみんなで庄内をつないでいこうという再確認の年でもありました。

私がまだ致道博物館副館長の時、そしてこの会社を中心にやっていた頃だったのですが、この『故きを温ねて』という冊子を出版しまして、発売しました。そのことがきっかけで、山形新聞の日曜随想に1年間執筆する機会をいただきました。そしてそのことがあっていろいろと博物館のほうでも、刀剣乱舞とコラボレーションとか、インバウ

ンドのタイからとかいろんな国から訪れてくださる方もいて、一般社団法人を設立したり、そして一般社団法人のクラウドファンディングに挑戦したりもしました。成功もしました。そして山形大学とか、公益文化大学とか、いろんなところで講演をする機会をいただきました。すべては1つのこの『故きを温ねて』という冊子から始まったことだと考えています。ちょっとした小さな挑戦というか、賛否両論あったのですけれども、そうした挑戦が1つあって、それがずーっとつながって、いろんなことがつながって、今、本日、こちらでお話をさせていただいているのかなと思って、すごく感慨深いところでございます。

荘内藩株式会社のほうでは地元の企業とのコラボレーションを目指しております。さまざまな企業と連携して商品開発をしています。お漬物であったり、だだちゃ豆のお饅頭、そして麺つゆ、あと、だだちゃ豆ごはんの素とか、麦きりとか、それぞれの特産品、商品を持っている企業とコラボして荘内藩を冠した商品を販売していきたいと考えております。それも致道博物館のショップだけでしか販売しないような形にしたいと、博物館でしか買えないものになりたいと思っています。そういう意味で荘内藩を発信していきたいと思っていますし、致道博物館を訪れた方に荘内藩の商品を買っていただいて、お土産品としてその歴史とか文化とか、「酒井家」、「荘内藩」というワードをそれぞれのご自宅に持ち帰っていただくということを考えております。どこまで需要があるかわからないですが、やっていきたいと思っています。

一昨年、NHKのBSで『新日本風土記』という番組がありまして、そちらに家族で出演したのですけれども、まさに文化財のことなのですが、大切に守っていくこと、次の世代、未来につなげていくことが本当に大事だと思っていますし、この庄内、鶴岡、すごい辺鄙なところです。なかなか人が来ないところでもあるのですけれども、この地にも人を呼び込むようなそのような仕事がしたい、その一筋の光になれるような人間になりたいと考えております。これは山形新聞、2022年の山新ですが、父からバトンを受け継いでというところで、去年の6月に代表理事、致道博物館館長交代というニュースがおとしの6月に出版して、1年前から発信してというか、「館長が1年後に代わりますよ」というふうに父が先に発表してくれたということでありますけれども、受けたバトンを今度は私が誰かの、自分の息子なのかかわからないのですけれども、次は本当に力のある人につないでいきたいと思っています。

輝ける未来へということ、いろいろとコロナとかさまざまなことがあって、博物館はすごいダメージを受けました。観光客もまったく来ない、地元の方々もなかなか動かない。そもそも博物館を開くこともできない、閉じなきゃいけなかった時もありました。そんな大変な時を乗り越えて今、博物館を引き継ぎ、これからますますより明るい未来に向けてがんばっていききたいと思っています。

致道博物館はより魅力的になるためにこれからもがんばっていきますし、博物館の枠を超えていきたいと思っています。より魅力的なそういうサービス業というか、博物館を楽しい、おもしろい所だということになんとか持って行きたいと考えております。皆さまのお力添えを、何卒賛助会員になっていただければ大変ありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございます。

本日出席 (5 / 13)	会員総数	出席会員数
	103名	61名